

山田町文化財報告書第2集

# 山田町遺跡詳細分布調査報告書

1995.3

宮崎県山田町教育委員会

## 序 文

山田町では、平成5年度と6年度の2ヶ年間にわたって、文化庁と宮崎県教育委員会の御指導・御支援を受け、町内全域にわたる遺跡詳細分布調査を実施してまいりました。

今回の調査は、地下に埋蔵されている文化財が開発等によって崩壊・消滅することを、未然に防止するための資料とすることを目的としたものであります。

調査は、町全域を東部・南部（中霧島地区・南山田地区）と西部・北部（北山田地区・木之川内地区）に分け、1年次に前者、2年次に後者が実施されました。

本町では、旧石器時代・縄文時代・弥生時代の土器や石器をはじめ、貴重な埋蔵文化財が発掘・採集されている地域であり、町内にはまだまだ多くの埋蔵文化財があることが考えられます。今回の調査によって、多量の土器や石器等の遺物が採集され、新たな遺跡の発見があったことは、文化財保護の観点から大きな意義があると思います。

今後、町内において開発事業が計画される場合には、本書を参考にいただき、町教育委員会と十分な協議をして埋蔵文化財の保護に御協力をお願いしたいと存じます。

本調査にあたり、格別の御指導・御援助をいただきました文化庁・宮崎県教育委員会ならびに町民の皆様方に対し、心よりお礼を申し上げますとともに、今後とも本町の文化財保護行政に対する御指導・御協力をお願い申し上げます。

山田町教育委員会 教育長 福 森 實 治

## 例 言

1. 本書は、山田町教育委員会が平成5年度から平成6年度にかけて文化庁・宮崎県教育委員会の援助を受けて実施した遺跡詳細分布調査の報告書です。
2. 本調査は、埋蔵文化財に関する調査であり、内容は本町全域を対象とする埋蔵文化財包蔵地調査カード及び遺跡分布図の作成であります。
3. 本書の構成は、埋蔵文化財包蔵地地名表・試掘調査概要報告・附図の遺跡分布図から成っています。
4. 本書に掲載された埋蔵文化財は、すべて文化財保護法にいう「周知の文化財包蔵地」です。
5. 「周知の文化財包蔵地」において、土木工事等を実施しようとする場合には、文化財保護法により「発掘（工事）に着手する日の60日前までに文化庁長官に届け出る」必要がありますので、土木工事等の計画段階から山田町教育委員会（山田町大字山田3,881番地 Ⅱ0986-64-1121）ないし宮崎県教育委員会文化課（宮崎市橋通東1丁目9番10号 Ⅱ0985-24-1111）へ事前に照会し協議されたい。
6. 埋蔵文化財は、地下に埋もれている性格上、現在、未発見で工事中発見される場合があります。その場合は、文化財保護法の規定により「その現状を変更することなく、遅滞なく文化庁長官へ届け出る」必要があります。そのため、工事等を計画する場合は、なるべく事前に山田町教育委員会ないし宮崎県教育委員会文化課に照会されたい。
7. 本書及び埋蔵文化財に関するお問い合わせは、山田町教育委員会ないし宮崎県教育委員会文化課へお願いいたします。

## 凡 例

1. 埋蔵文化財包蔵地（以下「遺跡」）の範囲については、地図上に赤色で示した。
2. 地図の「遺跡番号」は、すべて地名表のそれと一致する。
3. 「遺跡番号」は、集落跡・散布地・城跡を一番号とした。
4. 各遺跡を大字により2地区に分け、N-01番台は中霧島地区、Y-01番台は南山田地区とした。
5. 遺跡名は、原則として小字名にしたが、一部のものについては通称・俗称によった。
6. 遺跡の所在地は、大字名・小字名で示した。地番については、山田町教育委員会及び宮崎県教育委員会へ問い合わせられたい。
7. 調査の組織

調査主体 山田町教育委員会

平成5年度・平成6年度

福森實治 教育長

蔵満 勇 社会教育課長

中山一城 社会教育係長

調査担当 寺師雄二 社会教育課主査

庶務担当 寺師雄二 社会教育課主査

調査指導 面高哲郎 県文化課係長

調査補助員

平成5年度 児玉ミエ 平成6年度 児玉ミエ

鈴木マツノ 鈴木マツノ

千代森リヲ 千代森リヲ

野間文子 野間文子

森山ヨミ子 森山ヨミ子

吉田フミエ 吉田フミエ

川畑サチ子

中間トク

# 目 次

I. 埋藏文化財包蔵地地名表 .....	1
中霧島地区 .....	1
山 田地区 .....	3
II. 試掘調査概要報告 .....	6
薩摩迫遺跡 .....	6
長尾下第1遺跡 .....	9
III. 埋藏文化財発掘調査関係報告書一覧 .....	12
袋綴 山田町遺跡分布図 [1:25,000]	

## I. 埋蔵文化財包蔵地地名表

中霧島地区 N-01～

山田地区 Y-01～

1. 番号は地図の番号と一致している。
2. 旧番号は昭和51年度発行の「全国遺跡地図—宮崎県—」の遺跡番号である。

# 埋藏文化財

中霧島地区 (NO1 ~ )

遺跡番号	遺跡名称	所在地	時代	種別	旧番号 (地区)	備考
N01	四方境遺跡	大字中霧島字四方境	縄文	散布地		
N02	栗木田遺跡	大字中霧島字栗木田	弥生	散布地		
N03	東原遺跡	大字中霧島字東原	弥生	散布地		
N04	大堀第1遺跡	大字中霧島字大堀	弥生	散布地		
N05	大堀第2遺跡	大字中霧島字大堀	縄文・弥生	散布地		
N06	前堀第1遺跡	大字中霧島字前堀	縄文・弥生	散布地		
N07	前堀第2遺跡	大字中霧島字前堀	弥生	散布地		
N08	宮前遺跡	大字中霧島字宮前	縄文・弥生	散布地		
N09	焼牧遺跡	大字中霧島字焼牧	縄文・弥生	散布地		
N10	山之迫遺跡	大字中霧島字山之迫	縄文	散布地	20-67	旧遺跡名 榎田遺跡
N11	西谷遺跡	大字中霧島字西谷	縄文・弥生	散布地		
N12	下大迫遺跡	大字中霧島字下大迫	弥生・近世	散布地		
N13	助谷遺跡	大字中霧島字助谷	弥生	散布地		
N14	論田第1遺跡	大字中霧島字論田	縄文・弥生	散布地		
N15	論田第2遺跡	大字中霧島字論田	縄文・弥生	散布地		
N16	論田第3遺跡	大字中霧島字論田	縄文・弥生	散布地		
N17	論田第4遺跡	大字中霧島字論田	縄文・弥生	散布地		
N18	池増第1遺跡	大字中霧島字池増	縄文・弥生	散布地		
N19	池増第2遺跡	大字中霧島字池増	旧石器 縄文	散布地		
N20	榎木田遺跡	大字中霧島字榎木田	縄文	散布地	20-9	旧遺跡名 論田遺跡

中霧島地区 ( N21～ )

遺跡 番号	遺跡名称	所在地	時代	種別	旧番号 (地区)	備考
N 21	仮屋之上遺跡	大字中霧島字仮屋之上	弥生	散布地		
N 22	北田遺跡	大字中霧島字北田	弥生・中世	散布地		
N 23	重原遺跡	大字中霧島字重原	弥生	散布地		
N 24	虎崩遺跡	大字中霧島字虎崩	縄文	散布地		
N 25	岡下遺跡	大字中霧島字岡下	弥生	散布地		
N 26	薩摩迫遺跡	大字中霧島字西脇	中世	散布地	20- 8	
N 27	西脇遺跡	大字中霧島字西脇	弥生	散布地		
N 28	七代遺跡	大字中霧島字七代	縄文	散布地		
N 29	丸尾遺跡	大字中霧島字丸尾	弥生・近世	散布地		
N 30	島礪遺跡	大字中霧島字島礪	弥生	散布地		
N 31	鎌府田遺跡	大字中霧島字鎌府田	縄文	散布地		
N 32	上大迫第 1 遺跡	大字中霧島字鎌府田	縄文・弥生	散布地		
N 33	上大迫第 2 遺跡	大字中霧島字鎌府田	縄文・弥生	散布地		

# 埋藏文化財

山田地区 (Y01～)

遺跡番号	遺跡名称	所在地	時代	種別	旧番号 (地区)	備考
Y01	前田第1遺跡	大字山田字前田	弥生	散布地		
Y02	前田第2遺跡	大字山田字前田	弥生	散布地		
Y03	二重原遺跡	大字山田字二重原	縄文	散布地		
Y04	裸山第1遺跡	大字山田字裸山	弥生	散布地		
Y05	裸山第2遺跡	大字山田字裸山	弥生	散布地		
Y06	裸山第3遺跡	大字山田字裸山	縄文・弥生	散布地		
Y07	柿木原第1遺跡	大字山田字柿木原	縄文	散布地		
Y08	柿木原第2遺跡	大字山田字柿木原	縄文・弥生	散布地		
Y09	柿木原第3遺跡	大字山田字柿木原	縄文	散布地		
Y10	山田城跡	大字山田字脇之馬場	中世	散布地	20- 3	
Y11	二重原第1遺跡	大字山田字二重原	弥生	散布地		
Y12	二重原第2遺跡	大字山田字二重原	弥生	散布地		
Y13	合戦場第1遺跡	大字山田字合戦場	縄文・弥生	散布地		
Y14	合戦場第2遺跡	大字山田字合戦場	弥生	散布地		
Y15	合戦場第3遺跡	大字山田字合戦場	弥生	散布地	20- 5	旧遺跡名 合戦場遺跡
Y16	浜之段遺跡	大字山田字浜之段	弥生	散布地		
Y17	宮田遺跡	大字山田字宮田	弥生	散布地		
Y18	宮ノ尾遺跡	大字山田字宮ノ尾	弥生	散布地	20- 2	旧遺跡名 浜之段遺跡
Y19	坂ノ上第1遺跡	大字山田字坂ノ上	縄文・弥生	散布地		
Y20	坂ノ上第2遺跡	大字山田字坂ノ上	弥生	散布地		

## 山田地区 (Y21~)

遺跡番号	遺跡名称	所在地	時代	種別	旧番号 (地図)	備考
Y 21	外ノ口遺跡	大字山田字外ノ口	弥生	散布地		
Y 22	坂ノ上第1遺跡	大字山田字坂ノ上	縄文・弥生	散布地		
Y 23	坂ノ上第2遺跡	大字山田字坂ノ上	縄文・弥生	散布地		
Y 24	坂ノ上第3遺跡	大字山田字坂ノ上	縄文・弥生	散布地		
Y 25	谷ノ口遺跡	大字山田字谷ノ口	弥生	散布地		
Y 26	鏡掛遺跡	大字山田字鏡掛	弥生	散布地	20- 7	旧遺跡名 長谷遺跡
Y 27	狐東遺跡	大字山田字狐東	弥生	散布地		
Y 28	中牟田遺跡	大字山田字中牟田	縄文・弥生 近世	散布地		
Y 29	栄歳松第1遺跡	大字山田字栄歳松	縄文	散布地	20- 3	旧遺跡名 柿木原遺跡
Y 30	栄歳松第2遺跡	大字山田字栄歳松	縄文・弥生	散布地	20- 4	旧遺跡名 西椏遺跡
Y 31	曲田遺跡	大字山田字曲田	弥生	散布地		
Y 32	木手ヶ山遺跡	大字山田字木手ヶ山	縄文	散布地		
Y 33	中村遺跡	大字山田字下川窪	縄文	散布地		文献1
Y 34	町田第1遺跡	大字山田字町田	弥生	散布地	20- 1	旧遺跡名 瀬之口遺跡
Y 35	町田第2遺跡	大字山田字町田	縄文・弥生	散布地		
Y 36	平山遺跡	大字山田字平山	縄文	散布地		
Y 37	下椎屋第1遺跡	大字山田字下椎屋	縄文・弥生	散布地		
Y 38	下椎屋第2遺跡	大字山田字下椎屋	弥生	散布地		
Y 39	大堀原第1遺跡	大字山田字大堀原	縄文・弥生 近世	散布地		
Y 40	大堀原第2遺跡	大字山田字坂ノ上	縄文・弥生	散布地		

山田地区 (Y41～)

遺跡 番号	遺跡名称	所在地	時代	種別	旧番号 (地区)	備考
Y 41	大畑原第3遺跡	大字山田字坂ノ上	弥生	散布地		
Y 42	坂ノ上第1遺跡	大字山田字坂ノ上	縄文・弥生	散布地		
Y 43	高倉遺跡	大字山田字高倉	縄文・弥生	散布地		
Y 44	二反田遺跡	大字山田字二反田	縄文	散布地		
Y 45	下長谷遺跡	大字山田字下長谷	弥生	散布地	20-7	旧遺跡名 茅原遺跡
Y 46	牛谷ノ前原遺跡	大字山田字牛谷ノ前原	弥生	散布地		
Y 47	牛谷ノ下遺跡	大字山田字牛谷ノ下	弥生	散布地		
Y 48	諏訪原第1遺跡	大字山田字諏訪原	縄文・弥生 平安	散布地		
Y 49	諏訪原第2遺跡	大字山田字諏訪原	縄文・弥生	散布地		
Y 50	長尾下第1遺跡	大字山田字長尾下	弥生	散布地		
Y 51	長尾下第2遺跡	大字山田字長尾下	弥生	散布地		
Y 52	西原遺跡	大字山田字西原	縄文・弥生	散布地		
Y 53	吉牟田第1遺跡	大字山田字吉牟田	縄文	散布地		
Y 54	吉牟田第2遺跡	大字山田字吉牟田	弥生	散布地		
Y 55	四方面遺跡	大字山田字四方面	縄文・弥生	散布地		

## II. 試掘調査概要報告

薩摩迫遺跡  
長尾下第1遺跡

# 薩摩迫遺跡

## 1. 遺跡の位置

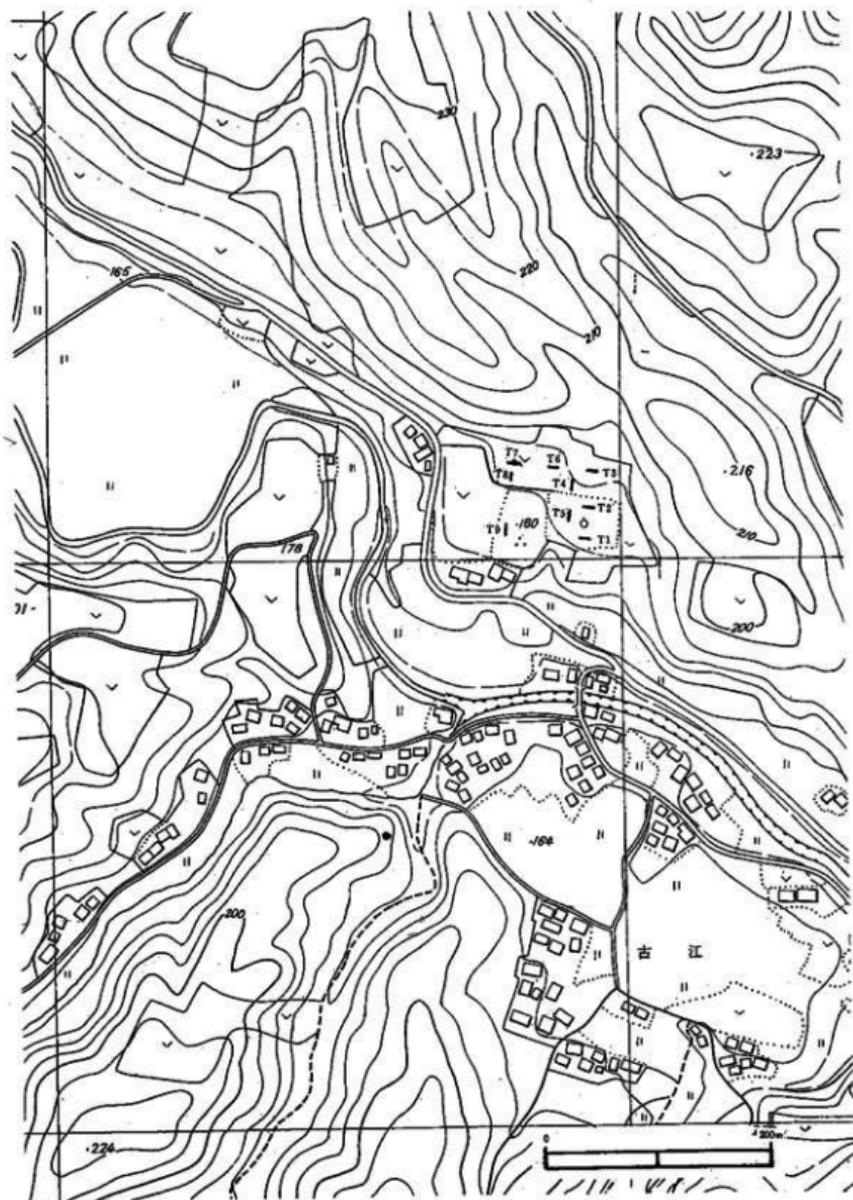
山田町の南東部、役場より約2.4に古江地区が位置し、その中央を丸谷川の支流である渡司川が東から西へ流れている。丸谷川と渡司川に挟まれた舌状台地の端部には多くの遺跡が分布しているが、本遺跡も台地の端部が渡司川に張り出すような形状の河岸段丘上に位置している。

## 2. 調査の概要

本遺跡は、島津氏4代忠宗の6男資忠が、筑前国金隈合戦の功により、足利尊氏より島津荘300町を与えられ、正平7年(1,352)当地に入って北郷氏を称し、居館を構えた場所とされており、周辺部では以前から中世陶磁器片が採集されていた。

調査は、平成5年3月15日から22日までの間、9か所のトレンチ(1×5m)を設定して実施した。遺跡の基本層序は、第I層が表土(約30cm)、第II層が黒褐色土(20cm)、第III層がボラ混黒色土(30cm)、第IV層が御池ボラ層(推定約3m)となっている。本遺跡では御池ボラ層上面までを試掘調査の対象とした。本町では御池ボラ層上面においては、2~40cmの遺物包含層である黒色土中に縄文後期以降の遺物が混在して検出される例が多く、層序別に時期的な判別は困難な状況にある。また、遺構の検出面は御池ボラ層上面で検出している。調査は、現況が栗林となっている下段と畑になっている上段の2か所に約1mの段差をもって分かれているので、上段5か所と下段4か所の計9本のトレンチとした。

調査の結果、中世の溝状遺構及び方形土壇、柱穴状遺構が検出され、輸入磁器(青磁・白磁)国内陶器(東播系すり鉢)が遺構に伴って出土した。その他、弥生土器も第III層下部で出土した。



第4トレンチ



第8トレンチと柱穴状遺構



第2トレンチと溝状遺構



# 長尾下第1遺跡

## 1. 遺跡の位置

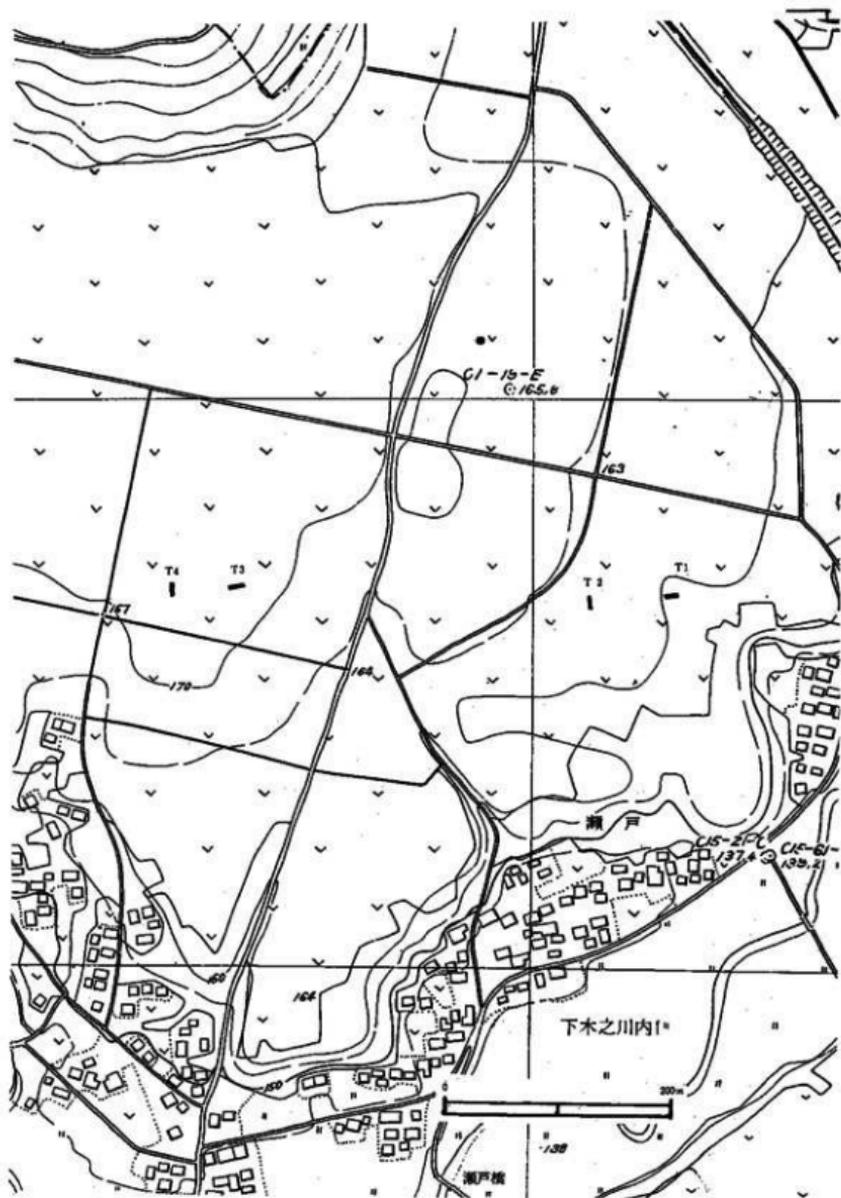
本遺跡は、山田町役場の北東部、役場より約3.2kmに位置し、本町の北部から走る舌状台地の端部にあたる。大淀川の支流である木之内川内川に沿って河岸段丘上に多くの遺跡の分布が見られるが、本遺跡もその一つである。

## 2 調査の概要

調査は、平成7年1月17日から20日までの間、4か所のトレンチを設定して実施した。遺跡の基本層序は、第1層が表土（約40cm）、第Ⅱ層が黒褐色土（30cm）第Ⅲ層がボラ混黒色土（約20cm）、第Ⅳ層が御池ボラ層（推定3～3.5m）となっている。

トレンチの設定位置は、畑地の東部と西部にそれぞれ2本（2m×5m）であった。全トレンチともに表土下のⅡ・Ⅲ層の良好な堆積が見られるが、2か所ではトレンチャーによる攪乱が見られた。第Ⅳ層の御池ボラ層は、厚い層の堆積が推定された（約3～3.5m）ので、試掘調査は第Ⅲ層までとし、第Ⅲ層の上面を遺構検出面とした。

調査の結果、弥生後期の土器の出土があり、第1トレンチでは集中して出土した部分もあったが、遺構は検出されなかった。出土層位は、第Ⅱ層下部から第Ⅲ層であった。





長尾下第1遺跡  
遠景（北から）

試掘調査作業中



第1トレンチ層序  
及び弥生土器  
出土状況

長尾下第1遺跡

### Ⅲ. 埋蔵文化財発掘調査関係報告書一覧

- 1 「中村遺跡」【山田町文化財報告書第1集】山田町教育委員会  
昭和58年（1983）

